

# 年頭のご挨拶



(一社)富山県測量設計業協会

会長 市 森 友 明

新年あけましておめでとうございます。

令和4年の新春を迎え、協会員の皆様方をはじめ日頃から当協会の運営に対して、ご理解とご支援を頂いております関係機関の皆様方のご健勝を心からお慶び申し上げます。昨年は、コロナ禍ということもあり、例年と多少雰囲気異なって迎える新年でありましたが、延期された東京オリンピックも無観客ではありましたが、無事開催されました。ワクチン接種率も先進諸国の中でも高く、あらためて日本人の危機意識の高さを感じる次第です。本稿が発刊されているときの状況は予測できませんが、無事第6波を乗り越え、このままコロナが終息に向かうことを、心より願っております。

昨年の災害を振り返りますと、令和3年7月1日に伊豆諸島で線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となり、2日から3日かけて、東海地方、関東地方南部に拡大し、静岡県においては複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な豪雨となりました。7日は中国地方日本海側でも線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となり、9日には鹿児島県さつま町で500ミリを超える記録的な大雨となりました。内閣府の発表（11月4日）によれば、この大雨で、26名もの尊い人命が失われました。想定を超える外力の発生が昨年同様に発生し、それにより想定を超える被害が毎年発生している状況に対して、ソフト対策のみならず、堅実な社会インフラの整備で対応していかなければ、効果的な防災・減災は困難であると、あらためて、感じさせられました。

また、このような気候変動によるリスクは、東証の上場企業に対しても影響を及ぼしています。本年4月の市場再編後の「プライム市場」では、国際組織の気候関連財務情報開示タスクフォー

ス（TCFD）の提言に沿った、企業の気候変動リスクに対するリスク開示が要求されます。洪水などの自然災害は物理的リスクとして見込み、その対処シナリオを策定する必要があるようです。このように水害は、企業経営のみならず、金融や証券の分野でも、年々重要視されつつあります。

測量設計業界は、水害だけでなく、様々な災害に対応する防災インフラに携わっておりますが、技術研鑽のみならず、気候変動に対するこのような社会経済情勢をも知識として取り込み、そして発注者様のご要望に、災害対応時だけでなく、日頃の業務においても意識高く取り組まなければならないと感じています。

さて、当協会の話題となりますが、一昨年より取り組みはじめた、担い手育成における測量士の専門学校ですが、民間の専門学校様の献身的なご協力により、本年4月に開校の見通しであります。当協会としても、物心両面で全面的にご協力したいと考えております。一方で、高校生への入学案内活動での状況は、建築士やCADコースへの希望者はあるものの、測量士コースにはほとんど希望者がいないという状況をお聞きしました。高校生に対する測量設計業の認知度が極めて低いことを痛感した次第であり、本年度より、PRビデオの配布や、担い手育成委員会による、各高校への業界の訴求活動も実施する予定であります。一人でも多くの高校生の方々が、測量士を目指していただければ幸いであり、協会としても初めての取り組みとして、努力する所存です。

最後になりますが、今後とも当協会並びに会員企業に対し、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願いいたします。